

科目名称：	美術（幼児と表現A）	
担当者名：	森田 ゆかり	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
1. 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2. 身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を活かした表現ができる。 3. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 4. 他者の表現を受けとめ共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 5. 様々な表現の基礎的知識・技能を身に付ける。		
授業の達成目標・到達目標		
1. 「表現」とは何か？という根源的な問いに向き合いながら、こども及び自らの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びについて実践的に学び、知識・技能、表現力を身につける。 2. 造形活動を通してこども一人一人の発達や思いを読みとれることを理解する。		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP (2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP (3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP (4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP (1)					0
ビジネスDP (2)					0
ビジネスDP (3)			70	30	100
ビジネスDP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》アートスクール講師（2歳児～小学生の絵画・造形指導）	《経験年数1》2年6か月
	《内容2》アートディレクター（こども対象のワークショップなど企画・実践）	《経験年数2》4年10か月
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 「表現」とは？「造形遊び」とは？ 領域「表現」のねらい及び内容（電子黒板使用）	シラバスを精読しておく。	20分
第2回 無垢な目と自由な心 DVD『エリック・カール 色の魔法を学ぼう』（電子黒板使用）《ファイルづくり》	第1回の授業内容より「表現」「造形遊び」について復習。	15分
第3回 造形遊び① 「エリックさんの色紙」づくり（電子黒板使用）（グループワーク）	第2回の授業内容（DVD視聴からの学び）を復習。	15分
第4回 造形表現① コラージュ「エリックさんの色紙」を活かす（グループワーク）	第2回の授業内容（DVD視聴からの学び）を復習。	15分
第5回 造形遊び② デカルコマニー（合わせ絵）《ファイルの整理》（グループワーク）	第3回、第4回授業での体験からの気づきを復習。	15分
第6回 造形表現② コラージュ デカルコマニーで生まれた形を活かす、鑑賞を楽しむ（電子黒板使用）	第1回の授業内容より「造形遊び」と「表現」の関係について復習。	15分
第7回 造形遊び③ ドリッピング、シャボン玉版画（グループワーク）	授業の目的・テーマ1, 2, 3の意味について前回までの授業を踏まえ考察。	15分
第8回 造形遊び④ スタンプ台づくり、フィンガーペインティング（グループワーク）	授業の目的・テーマ1, 2, 3の意味について前回までの授業を踏まえ考察。	15分
第9回 造形遊び⑤ スタンプ遊び（グループワーク）	授業の目的に合った素材、ものを収集しておく。	30分
第10回 こどもの絵を読み取る・こどもの絵から見える発達と問い（領域「表現」の位置づけ）（電子黒板使用）	課題「絵を描くことにまつわる幼少期の体験」について記しておく。	20分
第11回 造形遊び⑥ 水彩絵の具による混色遊び、こどもの魅力的な線を活かす彩色（絵の具の基礎知識）（電子黒板使用）	課題「絵の具に関する困ったこと」について記しておく。	20分
第12回 造形遊び⑦ クレヨン、パス、ペンで遊ぶ（描画材料の基礎知識・身体感覚で捉える）（グループワーク）	前回の授業で指示された描画材料（家にあるもの）を収集しておく。	20分
第13回 造形表現③ 第12回授業までの学びを活かす（グループワーク）	造形遊びで生まれた素材を整理し、活用できるようにしておく。	20分
第14回 「五感」（特に触覚）について考える DVD『手でみてつくる』（電子黒板使用）	課題「触覚にまつわる体験」について記しておく。	20分
第15回 前期授業の振り返り・まとめ、表現の楽しさを生み出す要因について考える（電子黒板使用）《ファイル提出》	第13回までのワークシートを読み返しファイル提出の準備をしておく。	30分
<p>第3回～第13回は「アクティブラーニング」。</p> <p>事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。また、事前事後学修としては、上記内容以外に次回までの小レポートをまとめることになる。</p>		
成績評価の方法・基準		
<p>定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。</p> <p>ワークシート（70%）〔毎回配付されるワークシートを授業内で各自作成し提出。返却されたワークシート及び資料を綴ったファイルを最終授業で提出。〕、授業への積極的関与（30%）</p>		
課題に対するフィードバック		
<p>毎回作成・提出されるワークシートには全て担当者が目を通し、返却する際、ワークシートの記述内容に即してプリントなどで補足しながら振り返りを行う。</p>		
教科書・参考書		
授業中に適宜資料を配付する。		